

緑化だより

No.168 令和 3年 1・2月合併号



コスギゴケ

- 季節の花(ヤナギ)
- 昆虫の話
(草葉の陰で春を待つ・キタキチョウ)
- 小さな世界こけ(コケが観察できる場所(11))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

ヤナギ

「うち上る 佐保の川原の青柳は 今は春へとなりけるかも」

大伴坂上女郎 万葉集 巻8-1433

これを訳しますと

(川の流りに沿って上っていくと、佐保の川原の柳がすっかり芽吹いて、そよ風に揺れ春の訪れを告げていますね)

奈良の都(平城京)の佐保道には街路樹としてシダレヤナギが植えられていました。そこには大伴一族の館があり、その館で行われた宴会の席で、すっかり春の風情になった佐保の川原の様子が歌われています。

“柳”という漢字は垂れ下がるヤナギを表し、シダレヤナギを指すことが多いとされています。枝垂れた枝に葉と花を同時につけ、風に揺れる姿は春の趣があります。

ヤナギはヤナギ科ヤナギ属で雌雄異株の落葉性の樹木です。シダレヤナギは、中国原産で、揚子江と黄河の流域に自生する高木です。別名はイトヤナギです。日本で見られるシダレヤナギはほとんどが雄株です。奈良時代より植栽されており、北海道から沖縄まで日本各地の公園や街路樹でよく見られます。2017年に鳥取県の青谷(あおや)遺跡「古代 山陰道」から平安時代の柳の街路樹跡が見つかっています。

早春に萌え始める柳の芽は生命力を表し、古代の人々は、その柳の枝を頭に巻いたり、挿したりして、靈力を体に取り込んでいました。日本では中国の古事に習い、正月を迎える初釜のお茶席では、床の間の飾り花として、シダレヤナギのしなやかな細い枝を輪に結んだ「結び柳」が飾られる習わしがあります。結び柳は、行く年から来る年への縁つなぎといわれ、現在も受け継がれています。(上村)



シダレヤナギ



初釜での“結び柳”

昆虫の話

草葉の陰で春を待つ・キタキチョウ

冬、多くの昆虫たちは卵や蛹の状態で、地中や樹皮の隙間などで冬眠するため、その姿を目にする機会はありません。一方、成虫の状態で、目につく位置で越冬する昆虫も少なからず存在します。キタキチョウはその代表で、成虫が吹きさらしの中、枝や草につかまったまま越冬します。翅を開くと鮮やかな黄色をしています。裏面は細かい斑点を散らした、くすんだ黄色で、閉じている状態では意外と目立ちません。冬山では灌木についている個体に、目の前まで近づいて初めて気づく、ということが多いです。

キタキチョウはかつて、キチョウと呼ばれていました。しかし、九州以南に分布する個体群

とは翅の模様や幼虫の食草が異なり、南のものをミナミキチョウ、北のものをキタキチョウと2種類に区別するようになりました。広島に分布するのはキタキチョウのほうで、都市部から山地まで広く分布し、個体数も多いチョウです。マメ科の植物、中でもネムノキやハギに好んで産卵し、家庭のハギの植え込みでもその姿を目にします。卵はモンシロチョウなどと同じくとんがり帽子のような形をしており、幼虫の姿もそっくりです。比較的飼育が容易なため、こんちゅう館の温室でもよく飛び交っています。



越冬中のキタキチョウ

冬の寒さを耐え忍んだキタキチョウは、春になると真っ先に飛び始め、新たに芽吹いた食草に卵を産み付けます。このころには厳しい風雪で翅はボロボロになっていますが、どこか楽しげにひらひらと飛び回ります。もし冬の山で冬眠しているキタキチョウを見かけたら、ぜひ観察してみてください。(市森林公園 こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(11)

樹木見本園から少し場所を移し、⑳の看板のある溪流に入ってみましょう。

ここは、西から東に流れる谷筋で、周りが木で覆われているため、日中でも半日蔭の場所です。そのため、ここでは弱い光や湿り気を好むコケが見られます。

溪流の土手や、岩に着生しているコケに目を向けると、ケゼニゴケやヒメクサリゴケ、ゼニゴケ、クモノスゴケなどのタイ類が、またセン類ではホウオウゴケ、クマノゴケ、ヒメシノブゴケ、ケチョウチンゴケなどが見られます。

今回はセン類のホウオウゴケを観察しましょう。

令和2年10月号で紹介したトサカホウオウゴケと同じホウオウゴケ属で、30種類の仲間があります。

どれも葉のつき方は鳳凰の尾羽のようですが、茎の長さは1.5mmから9cmと幅があります。中でもホウオウゴケは、ガラスの容器で楽しむコケリウムでも、大変人気のあるコケです。

ホウオウゴケは大型のコケで、沢の斜面や岩に垂れるように群生します。茎の長さは5cmくらいから、成長のよいものでは9cmのものもあります。葉は長さ7mmくらいで左右につき、乾いても縮れることはありません。葉先の縁には粗い鋸歯があり、葉縁の細胞は厚いため、縁取りがあるように見えます。孢子体の柄の長さは15~17mmで細長い胞子のうをつけます。(山根)



ホウオウゴケ



ホウオウゴケ 葉の拡大

研修会のご案内

- 1月 6日(水)『春の七草と冬の野草の観察会』 10:00～12:00 学習室 集合
七草について学び、冬の野草を観察します。(今回、試食はありません。)講師：緑花文化士
※要予約(先着30組)、無料 中止 横山 直江
- 1月 20日(水)『なめこ植菌教室』 10:00～12:00 学習室 集合
植菌体験して家庭で栽培しよう 講師：日本きのこセンター
※要予約(キャンセル待ち)、材料費700円 三次支所長
影井 和男
- 2月 24日(水)『ジャンボ椎茸植菌教室 No.1』 10:00～12:00 学習室 集合
植菌を体験し、家庭で栽培しよう 講師：日本きのこセンター
※要予約(先着30組)、材料費800円(1/5～予約開始) 三次支所長
第1回、第2回の両方に参加することはできません 影井 和男
- 2月 27日(土)『ジャンボ椎茸植菌教室 No.2』 10:00～12:00 学習室 集合
植菌を体験し、家庭で栽培しよう 講師：日本きのこセンター
※要予約(先着30組)、材料費800円(1/5～予約開始) 三次支所長
※自由参加・無料、ルーペ持参 影井 和男
第1回、第2回の両方に参加することはできません
- 3月 3日(水)『針葉樹の見分け方』 10:00～12:00 学習室 集合
～葉の構造を見る～ 講師：森林植物研究家
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぼう 埴田 宏

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。
また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。
ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆

- ・1月の休園日は年始の1月1日(金)～1月3日(日)及び、4日(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)です。
- ・合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料



合格祈願「やまこうばし」のお守り

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

・DECO クレイクラフト展

～1月24日(日)

(ボード展示)

・第4回ひろしま遊学の森

「四季の移ろい」写真コンテスト作品展

～1月24日(日)



「DECO クレイクラフト展」より



「四季の移ろい」写真コンテスト
作品展より